

# 地域活性化の動向

農林水産省大臣官房政策課 木村俊昭

# 目 次

- ・地域の現状と課題
  - ・人との出会い～一期一会
  - ・これまでの体験談・事例（成功と失敗）
  - ・地域活性化とは？
- 
- ・地域と大学との連携（協働の場づくり）
  - ・地域活性学会と地域活性機構
  - ・地域活性化事例（広がり・連携）
  - ・農商工連携の推進（客体から主体へ）
  - ・戦略的システムデザインによる活性化

# 地域活性化とは？

## 全体の最適化「まち全体の最適化」 (部分最適化は関連付け・つなぐ工夫)

- ① 1人当たり県民・住民所得の向上(産業連関度)
- ② 地域の人財育成の仕組みづくり(高大連携)
- ③ 地域の汗かき人の評価のシステム化(図書館に活動を収蔵)
- ④ 地場産業(農林水産業等)の振興と新産業の創出
- ⑤ 女性の活躍の場づくり(支援システムの構築)
- ⑥ 地域と大学との連携の場づくり(県民・住民が主体)
- ⑦ 訪れやすい図書館等の施設活用(司書・学芸員の活躍の場)
- ⑧ 地域内外の人財ネットワーク化(地域の専門家のネットワーク)

### 地場企業の振興(エコミックガーデニングの実践)

- ① 地域にある人的資源や組織の「棚卸し」をすること。企業経営者、研究者、経済団体は言うまでもなく、職人、IT専門家、小中学校の先生に至るまで、「この人だったらこんなことが出来る」という人を見つける。(業課別)
  - ② 地域のローカルリーダー、そして1)で見つけた主要な人々や団体に、エコミックガーデニングに協力してもらえるように働きかける。
  - ③ エコミックガーデニングが長期に亘る取り組みであること、政治的な駆け引きの材料にしないことをわかってもらう。
  - ④ どんな企業を対象にエコミックガーデニングの各種のサービスを提供するのかを決める。対象が、成長の可能性が高い中小企業か、起業家のタマゴたちかで、サービスのメニューは大きく異なる。(通常従業員20人以上の企業を対象にすると効果大)(主たる産業を決める)
  - ⑤ 対象となる企業の経営者たちに指導やコーチをすることが出来る、目利きや達人を見つける。
  - ⑥ 企業経営者、目利きや達人、エコミックガーデニングを実施する人々との間でネットワークを充実させる。
  - ⑦ 他の地域でエコミックガーデニングや類似のプログラムを実施している人々と情報交換する。(当初、数か所で展開、ワールドカフェ等で実現)
  - ⑧ 経営者に資する、無料もしくは安価な情報がどこで入手できるのかを知っておく。公共図書館や専門図書館の司書や学芸員から協力を得る。
  - ⑨ インターネットや、ブログ、ツイッターなどの新規メディアを活用するマーケティングについて勉強して、ビジネスにどう活用できるかを試す。
  - ⑩ 新しい考えや一見ばかげた考えを尊重する。エコミックガーデニングは未来をデザインする活動であり、「正解」にこだわる必要はない。
- ・ガーデナー: 行政・経済団体 植物: 企業  
庭: 地域社会  
・実践例: 松本市、島根県

# 地域活性化システム論について(※平成20年度まで地域再生システム論)

## 『地域再生』政策の3本柱

地域再生を担うひとづくり  
人材ネットワークづくり

補助金改革  
(地域の自主裁量性尊重)

民間ノウハウ、  
資金等の活用

### 【地域再生支援施策の活用】

大学を『地域の知の拠点』と位置付けるなど、省庁連携による多様なメニューで支援を実施。

地域再生  
計画等の  
策定

課題

地域固有の知の拠点である大学を活用し、地域課題を、学生・行政・NPO、地域づくり団体が一体となり「地域再生計画」等の策定作業を行う“場”づくり

## 『地域活性化システム論』

### 目的

現場のニーズに即した実践的なりサーチ・研究を実施、地域毎の具体的なアクションプランの作成を通じて、地域力の向上を図る。

### 講座内容

地域再生に関する①総論、②分野別の政策論、③具体的な地域での実例(全2単位付与)を想定。  
内容は大学の独自性を重視。

### 推進体制

内閣官房が中心となり、各地域・各大学のニーズに対するコンサルティングを実施。省庁を超え、政策のキーパーソンを地方へ派遣支援。広報活動の協力。

具体的に実施

- 18年度：「地域再生システム論」として、北陸先端科学技術大学院大学でモデル実施(1校)
- 19年度：10大学で展開
- 20年度：25大学で展開
- 21年度：「地域活性化システム論」に改称。29大学で展開

# 地域活性化システム論（地域再生システム論）開講校

【平成18年度】モデル事業(1大学)

【平成19年度】10大学

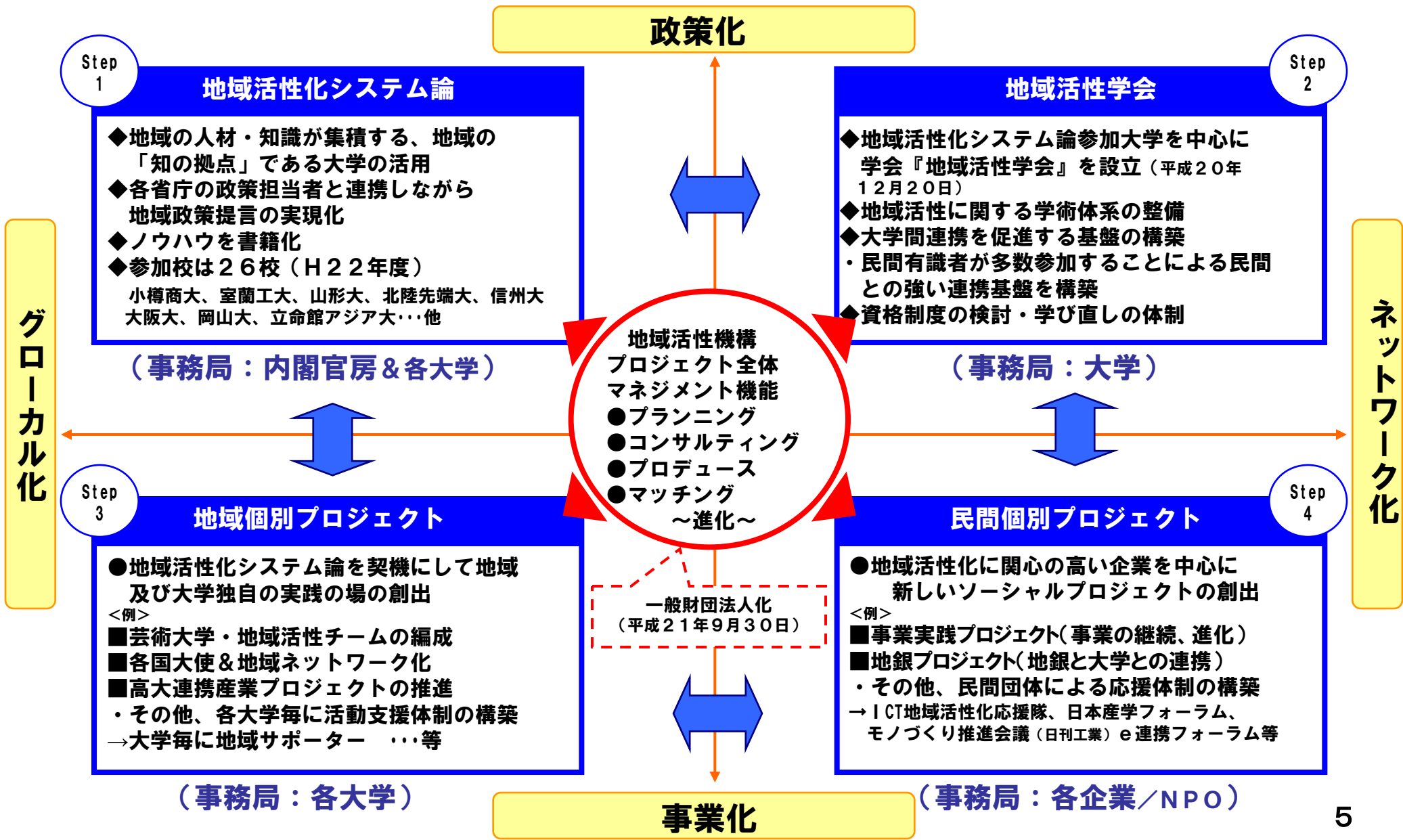
【平成20年度】25大学

## 【平成21年度開講実績】29大学で展開

- \* 足利工業大学(H21年度より開講) テーマ:足利市・両毛地域の活性化
- \* 秋田県立大学(H20年度より開講) テーマ:秋田県農業の再生
- \* 大阪大学(H20年度より開講) テーマ:医療・福祉、地域活性化、人材育成
- \* 岡山大学(H20年度より開講) テーマ:農学と地域活性化(農と福祉、バイオマス)
- \* 沖縄大学(H20年度より開講) テーマ:里海(イノー)、農と食、特産品開発、観光による地域再生
- \* 小樽商科大学・室蘭工業大学(H19年度より開講) テーマ:観光戦略、地域ブランド戦略、ものづくり戦略
- \* 鹿児島国際大学(H21年度より開講) テーマ:鹿児島の地域再生・活性化
- \* 岐阜大学(H21年度より開講) テーマ:まちづくりリーダー養成
- \* 京都橘大学(H20年度より開講) テーマ:「地域活性化」とは何か
- \* 高知工科大学(H20年度より開講) テーマ:農業、観光、スモールビジネスによる地域活性化
- \* 甲南大学(H20年度より開講) テーマ:六甲山の活性化
- \* 滋賀県立大学(H20年度より開講) テーマ:大学連携、地域資源を活かした地域活性化
- \* 島根大学(H19年度より開講) テーマ:地域資源を活用した産業振興
- \* 信州大学(H19年度より開講) テーマ:信州の食、観光、文化振興、人材育成
- \* 高崎経済大学(H19年度より開講) テーマ:地域づくり論、現代の地域づくり
- \* 千葉大学(H20年度より開講) テーマ:地域活性化人材育成
- \* 東京藝術大学(H20年度より開講) テーマ:芸術が地域にできること
- \* 東京農業大学(H21年度より開講) テーマ:オホーツク地域の特性を生かした地域活力の再生
- \* 東洋大学(H20年度より開講) テーマ:PPP制度手法論
- \* 獨協大学(H19年度より開講) テーマ:これからの「まちづくり」のヒントを探る
- \* 鳥取大学(H21年度より開講) テーマ:大山地域活性化
- \* 法政大学(H19年度より開講) テーマ:人口オーナス進行(人口高齢化、人口減少)下の地域再生
- \* 北陸先端科学技術大学院大学(H18年度より開講(モデル事業)) テーマ:バイオマス、伝統地場産業の活性化
- \* 三重大学(H21年度より開講) テーマ:三重県内の実態分析・課題抽出
- \* 宮城大学(H21年度より開講) テーマ:国土政策、住民参画、地方自治体の行財政改革
- \* 明治大学(H21年度より開講) テーマ:地域活性化のコツ、連携による地域活性化
- \* 和歌山大学(H20年度より開講) テーマ:観光を通じた地域再生
- \* 早稲田大学(H19年度より開講) テーマ:北杜市の地域資源の有効活用



# 地域活性化の効果的な事業展開図



# 地域活性化事例

## 日本のふるさと再生特区

(岩手県遠野市)



農業・都市農村交流  
関連

「どぶろく」の製造免許の要件緩和の特例を認めるなどして、地域資源、多彩な人材等を活用し都市との交流拡大を図るとともに、地域に根ざした新たな起業を促進する。

## 小豆島・内海町オリーブ振興特区

(香川県内海町)



農業関連

農業の担い手不足、地場産業の停滞する中、株式会社の農業経営参入の特例を活用し、地域資源であるオリーブを、加工する企業自らが町内の遊休農地を有効活用して栽培。町の活性化を図る。

※町名は認定時のもの

全国化済

## 海士デパートメントストアープラン～「選ばれし島」まるごと届けます～

(島根県海士町)

地域提案型雇用創造促進事業(パッケージ事業)【厚生労働省】



雇用対策関連

時間と距離という離島物流のハンディを解消するため、CAS(キャス・細胞を壊さない冷凍新技術)を活用した農水産物保存加工の新産業を興すことで、雇用を確保、定住者増加による島の再生を図り、次世代への持続可能な発展を目指す。

## 豊後高田「昭和の町」づくり計画～「昭和の町」を核とした商業と観光の一体的振興を目指して～

(大分県豊後高田市)  
地域提案型雇用創造促進事業(パッケージ事業)【厚生労働省】



雇用対策関連

観光サービスを企画・提供する人材の育成により、中心市街地の街並みの“古さ”を逆手にとった「昭和30年代」をコンセプトとする「昭和の町」づくりに取り組む。

# 農山漁村の潜在力

我が国の農業は、国民の生活に欠くことのできない食料を供給するのみならず、山がちな我が国の国土の保全、雇用機会の創出、文化・教育の場の提供、美しい環境の提供、新エネルギーの供給等、様々な経済的・社会的価値の可能性を有している。

## 農業・農村の社会的価値

### 国土保全

洪水、土壌侵食（流出）を未然に防止する災害に強い国作り

### 美しい環境の提供

良好な景観と環境の提供、生態系・生物多様性の保全

### 雇用機会の提供

経済情勢の変化に耐え得る雇用機会を提供

### 国内で食料を供給

安定的な国内食料の供給、安全な食生活の維持

### 新エネルギーの供給

バイオマス、風力、水力など新エネルギーの供給

### 文化・教育の場の提供

次世代の人間力を強化するための教育の場の提供

## 農業の有する多面的な機能の貨幣評価

洪水防止機能	3兆4,988億円/年	土砂崩壊防止機能	4,782億円/年
河川流況安定機能	1兆4,633億円/年	有機性廃棄物処理機能	123億円/年
地下水涵養機能	537億円/年	気候緩和機能	87億円/年
土壌侵食（流出）防止機能	3,318億円/年		
保健休養・やすらぎ機能	2兆3,758億円/年		

資料：日本学術会議「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について（答申）」（平成13年11月）

## 農林水産省の雇用対策

- 農山漁村雇用相談窓口の開設（相談件数延べ 51,215件。雇用決定数 8,238人（平成22年2月26日現在））
- 平成22年度予算においても、「農」の雇用事業など農林漁業に関する新規就業への支援として60億円を措置
- 6次産業化により、新たな付加価値を生み出し、農林水産業の成長産業化、食品産業の高度化、新産業の創出を図る

## 新エネルギー

- バイオ燃料：2030年に600万キロワット（現在のガソリン年間消費量の1割）を目標（未利用バイオマスを全て発電に活用した場合1,600万世帯の年間電力消費量に相当（585億kwh））
- 小水力発電：農業用水路等に存在する未利用の水力エネルギーは約8.8万kw（年間約9万5千世帯の年間電力消費量に相当）

## 教育・文化

全国の小学生が農山漁村を訪れ、1週間程度の宿泊活動を行う「子ども農山漁村交流プロジェクト」を実施。将来、毎年全国120万人（1学年規模）の小学生の参加を目指す



# 農商工連携の推進

農商工連携の強化

地域経済の活性化

経営の改善

農林漁業者

栽培技術等

それぞれの経営資源

商工業者

ビジネスノウハウ等

結びつけ  
(マッチング)

高付加価値の  
新商品開発  
新サービスの提供

支 援

- ・ 出会いの場づくり
- ・ 専門家の派遣

- ・ 試作品開発
- ・ 実用技術開発

- ・ 生産拡大
- ・ 販路開拓

## 農商工連携の事例

### 地場産小麦から高品質な麺を開発【北海道江別市】

#### ○農業者－製粉業者

- ・ 地元農家が栽培した小麦で麺を開発。  
地域ブランドとして、年間約300万食を売り上げ



### 減農薬栽培農産物を活用した観光集客【福岡県岡垣町】

#### ○農業者－旅館業者

- ・ 旅館業者が、新サービスとして地元農家の減農薬栽培農産物をジャムなどに加工・販売、自然食レストランでの新メニュー事業を開始。
- ・ 年間20万人の観光客



### 健康に良い高機能タマネギを地域限定生産【北海道栗山町】

#### ○農業者－バイオベンチャー－販売会社

- ・ 地元の大学発ベンチャーが、健康に良い新品種のタマネギを開発し、地元農家が生産。
- ・ 地域の販売会社が地域ブランドとしての商品開発や販路開拓。首都圏で販売を展開



### 「医食同源」をコンセプトにした地場食材のブランド化【長野県伊那郡】

#### ○農業者－食品加工会社

- ・ 地元農家が生産する有機米、減農薬野菜や食品加工品を自然健康食品ブランドとして商品展開や販路開拓。
- ・ ブランドとしての顧客リストは、10万人超



# エミュー(脂肪の活用) 東京農業大学オホーツク校(網走市)



脂肪



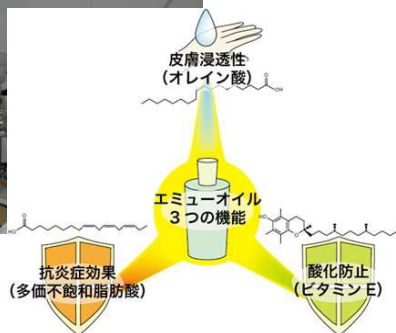
機能性研究



エミューオイル  
商品開発・販売

脂肪酸組成研究

精製法研究



# 農業・農村の6次産業化

- 雇用と所得を確保し、若者や子供も集落に定住できる社会を構築するため、農業生産と加工・販売の一体化や、地域資源を活用した新たな産業の創出を促進するなど、**農業・農村の6次産業化を推進**。

## 農村に由来する様々な「資源」

- 農産物 [米:約866万トン(平成20年産)  
野菜:約1,242万トン(H19)]

- バイオマス



食品廃棄物

[約1,900万トン(H18)]



林地残材

[約800万トン(H20)]

- 経験・知恵

- 自然エネルギー



太陽光



風力



水力

- 風景



- 伝統文化



等

農村の「資源」を活用し新たな事業に取り組みようとする「産業」

食品産業、観光産業、IT産業、  
化粧品・医薬製造業、エネルギー産業 等

「資源」と「産業」を結びつけ活用

## 農業・農村の6次産業化

- 生産・加工・流通(販売)の一体化による付加価値の拡大

[産地ぐるみでの取組(複数チャンネルの確保等)  
農業者による取組(多角化、複合化等)]

- 農業の生産性向上等

- 2次・3次産業による農業への参入

- 農業と2次・3次産業との融合による地域ビジネスの展開や新たな産業の創出

[バイオマス等地域資源を活用した新事業の創出  
農商工連携の推進  
再生可能エネルギー利用の推進 等]

連携・融合により、  
新たな付加価値を創出

雇用の確保と所得の向上による  
農村地域の再生・活性化

## 戦略的システムデザインによる活性化

☆努力は必ず報われる  
何度もチャレンジして  
仲間とチャンスを掴む  
→奇抜なプレゼンテーション&味方を巻き込む。

☆仕事を成功に導く力  
諦めずにできることから  
自分のプランを実現  
→場をつくり、賛同メリットを説く。評価軸を再考。

☆時間と労力をムダにしない前提  
信頼感あるキーパーソン  
としっかり連携  
→決裁権を持つ人がその気にならないと進まない。

### デザイン力

関係する人が利を  
得られるロジック  
=人が動くしくみ  
＜マネジメント力＞

☆日本の組織を機能させるヒント  
部分最適化ではなく  
全体最適化が肝要  
→断片化した縦と横のネットワークを繋ぎ、所得向上。

☆巻き込む人を楽しくさせる  
最適化を踏まえインパクト  
ある手を打つ  
→一部のパフォーマンスでは何ら解決にならない。

☆今、取組んでいること  
戦略的な地域設計で  
まちを活性化  
→「システムデザインマネジメント」の成功事例づくり。

# 「地域活性化」関連参考事例 (2010年9月作成)

## 「エミュー」の活用 (北海道網走市)

東京農業大学オホーツク校が中心となり、オーストラリアの国鳥である「エミュー」の生産を行い、食品・化粧品などの商品開発を通じた新規産業モデルを構築中

## 「農家蔵」の保存・活用 (青森県平川市)

NPO法人「尾上蔵保存利活用促進会」が中心となり、農業用の蔵を観光資源として活用し、グリーン・ツーリズムなどを展開

## 「高校生レストラン・まごの店」 (三重県多気町)

相可高校食物調理科生徒が運営する調理実習施設としてオープン。料理家を目指す高校生の夢を、建築家を目指す高校生が実現

## 「昭和の町」づくり (大分県豊後高田市)

商店街の街並みの「古さ」を逆にとった「昭和30年代」をコンセプトとしたまちづくりを行い、観光客数の大幅なアップに成功

## 「学生による手作りライトアップ」 (秋田県秋田市)

秋田県内の歴史的建造物などのライトアップを、芸大の学生を中心に携帯ライトを用いて実施。今後、さらに一般市民を巻き込んだ取組を展開予定

## 「やねだん」 (鹿児島県鹿屋市串良町)

人口300人弱の柳田(やねだん)町内会が、公民館長の豊重哲郎氏を中心に、遊休農地を活用したサツマイモ栽培やそれを活用したオリジナル焼酎の販売などにより、行政に頼らない集落づくりを展開

## 「おいしが うれしが」 キャンペーン(滋賀県)

滋賀県農水産物の地産地消を進めるため、生産者だけでなく、飲食店、小売店、マスコミなど幅広い関係者を巻き込んだネットワークを形成

## 「高校と大学の連携」 (山形県米沢市)

山形大学工学部は、工業高校等を卒業し、地元企業に就職した若者を大学院に受け入れる制度を創設し、地域を支える人材を育成する取組を展開

## 「サン奄美」 (鹿児島県奄美市)

離島の女性グループが一口15万円×20人=300万円を出資し、有限会社「サン奄美」を設立。小規模農家から農産物を現金で買い取り、タケノコなどの地元特産物の加工販売などを実施

## 「町主導」の活性化 (島根県邑南町)

町役場が主導し、牛肉などのネット販売、直売所の運営、ケーブルテレビ局の開設などを行い、多面的な活性化に向けた取組を展開

## 道の駅による地域活性化 (栃木県小山市)

道の駅の店長として百貨店の職員を招き、民間のノウハウを活かした経営を行うとともに、他の職員のスキルをアップさせ、高い売上を達成

## 「小田原手形」 (神奈川県小田原市)

地域内の60店舗以上で割引サービス等を受けられる「小田原手形」を製作。あわせて、さらなる交流の拡大を目指し「小田原井」の開発・販売なども展開中

## 「夕日の里づくり推進会議」からの活性化 (宮崎県五ヶ瀬町)

開発すべきは、建物でなく地元の人の意識が重要。農村民泊として9軒が参加。地元産品を加工する女性部から株式会社が発足。海外からの小学生～高校生を年間約1500名受入れ。

## とうもろこしに挑む 人口500人の村 (長野県平谷村)

人口500人の山間集落が、冷涼な気候を活かし、とうもろこしを栽培し、加工品などを販売



(参考) 近日の主な番組・記事をお知らせします。

木村 俊昭

- ・日経ムック『達人たちの仕事術』(2010年10月22日発行予定)  
情報を活かすとは、情報を組み合わせて新しい価値を作ること 54～57ページ
- ・メセナnote (Autumn2010) 特集 クリエイティブの現在  
地域の価値を見直し、独創的に発想する 12～13ページ
- ・週刊エコノミスト(2010年8月3日号) ワイドインタビュー 問答有用  
地域活性化の第1の条件は平均所得を上げること 44～47ページ
- ・大丸有CSRレポート2010 1000年続くまちへ (2010年7月発行)  
まちづくりは人づくり 2050年へのまなざし 16～17ページ
- ・市町村アカデミー(アカデミア 2010年夏号(第94号) 新連載 カリスマ公務員 第1回  
12～15ページ 産業文化の発信と人材の育成が原点—ガラスの街小樽としてのブランド化に成功—
- ・毎日フォーラム 日本を選択(2010年5月号) 8～9ページ  
継続と広がりがある地域全体の「最適化」を目指せ 公務員に今こそ求められる住民の目線と人脈づくり
- ・高1マイビジョン「シゴトのチカラ 公務員 木村俊昭」(株)ベネッセコーポレーション(2010年5月号)
- ・全国市町村国際文化研修所「国際文化研修」(2010年春vol.67)  
現場から見た「地域活性化」とはどういうことか?
- ・NHK「プロフェッショナル」DVD「仕事の流儀 木村俊昭の仕事」(2010年3月26日発売)
- ・BSフジ「プライムニュース」2時間生放送 (2010年2月17日出演) 20時～22時
- ・旅行読売(2010年3月号) 新刊紹介『「できない」を「できる!」に変える』144ページ
- ・毎日フォーラム(2010年3月号) BOOK REVIEW  
新刊紹介『「できない」を「できる!」に変える』47ページ
- ・NHK「プロフェッショナル」制作班・茂木健一郎編著  
(2010年1月10日・NHK出版・新生活人新書) (P120～P121に掲載)  
プロフェッショナルたちの脳活用号2/育ての極意とアンチエイジング
- ・コロンブス(2010年1号) 編集長インタビュー
- ・キズナ食堂(2009年11月～12月、2010年2月～3月出演) TBSテレビ番組19時～  
[http://www.tbs.co.jp/kizuna\\_Dining/](http://www.tbs.co.jp/kizuna_Dining/)
- ・致知(2009年11月号) コープさっぽろ理事長との対談
- ・旅行読売(2009年11月号) 元気なニッポンをつくる
- ・UR都市機構(2009年10号) これからの地域と経済 作家・幸田真音さんとの対談
- ・市政(2009年10月号) インタビュー「人」
- ・ガバナンス(2009年9月号) 全体の最適化の視点で現場を変えていく
- ・文科省:生涯学習2009年10月号・9月号 「学びの仕掛人」
- ・地方議会人(2009年9月号) 地域活性化の動向 ～今、地域では何が必要か～
- ・財界さっぽろ(2009年7月号) 地域再生に必要なものは
- ・宣伝会議(2009年6月号) 地域活性化とマーケティング 野田一夫さん、清成忠男さんとの対談
- ・全国市町村国際文化研修所(JIAM) 分権時代の自治体職員(第57回)  
<http://www.jiam.jp/melmaga/newcontents/newcontents58.html>
- ・SOCIO design note <http://www.socio-design.jp/2009/kimura-090523-1.html>
- ・情熱経営フェスタ(船井総合研究所)  
<http://passion-web.jp/festa2009/taidan/kimura.php>
- ・NHKプロフェッショナル「仕事の流儀 木村俊昭の仕事」(2009年5月19日放送、5月25日再放送)  
<http://www.nhk.or.jp/professional/backnumber/090519/index.html>

(第22回全国生涯学習フェスティバル)

全国生涯学習フォーラム高知大会



# まなびピア高知 2010

地域再生  
フォーラム



まなび愛  
つなげ龍馬の「志」

「土佐・龍馬であい博」開催中!



平成22年11月20<sup>土</sup>日・21<sup>日</sup>日・22<sup>月</sup>日

主催:全国生涯学習フォーラム高知大会実行委員会

問い合わせ先

高知県教育委員会事務局 全国生涯学習フォーラム推進課

TEL088-821-4661 FAX088-822-5016

まなびピア高知 検索





# こじやんと熱い! 地域活性の 汗かき人大集合!!

## 趣 旨

地方における地域活性化や産業振興の成立要件や産・学・官の役割、その役割を果たすために必要な教育内容や高等教育機関の在り方について提言を取りまとめ全国へ発信する。

## 開催日程

平成22年11月21日(日)~22日(月)  
田野町総合文化施設ふれあいセンター

第1日 11月21日(日)

### ◆基調講演『地域活性化の動向 ~「できない」を「できる!」に変える発想力~』

[9:45~10:45]



講師  
木村 俊昭氏

農林水産省大臣官房政策課企画官  
前内閣官房・内閣府企画官、元小樽市職員  
地域活性化伝道師(国)、地域活性化学会理事  
東京農業大学・早稲田大学ほか非常勤講師

NHKプロフェッショナル  
「仕事の流儀」に出演!

仲間とともに数々の町おこしを成功に導いたスーパー公務員が語る「人と地域を元気にする地域活性化術」

### ◆全国版!成功事例発表 [10:55~11:35]

#### 経済産業大臣賞受賞!

「岩手ネットワークシステム」 岩手大学



こども科学教室の様子

岩手ネットワークシステム(INS)は、岩手県内の大学、企業および県、市町村が連携した大学主導型の産学官民の交流組織である。INSの人的なネットワークを通して産学官民の組織のネットワークが形成され、地域の人材育成や活性化に貢献している。

地域と大学の  
連携成功事例

#### 国際交流基金 地球市民賞受賞!

町おこし  
成功事例

「神山アーティストインレジデンス」 NPO法人グリーンバレー



農具会アートツアーの様子

NPO法人グリーンバレーは、「人」をコンテンツにクリエイティブな田舎づくり、「せいかいのかみやまづくり」に取り組んでいる。現代アートを切り口に進めてきた国際芸術村づくり、地域課題をダイナミックに解決しようとする町の姿が明らかになる。

### ◆果敢に挑戦!

高知県産業振興計画 地域アクションプラン取組事例発表  
地域からオンリーワンを目指して [11:45~12:30]

2年目を迎えた高知県産業振興計画。地域資源(人・もの・アイデア)を生かして事業化を目指す地域アクションプランの取組事例をご紹介します

### ◆高知県の若者による研究事例発表とシンポジウム

[13:30~15:10]

~若者が地域の活性化にせまる~

高校生や大学生などがインターンシップや実践研究などを通して、地域で頑張っている組織を研究した事例を募集し、優秀事例を発表!

### ◆高知県版!成功事例発表 [15:40~17:10]

~高知県内の地域活性化の成功事例~

ビジネスとしての成功事例や人材育成の成功事例など、地域の活性化につながる高知県内の実践事例を募集し、優秀事例を発表!

第2日 11月22日(月)

### 地域活性化優秀論文発表

[9:20~10:05]

実践的な政策提言・地域活性化の取組支援につながる学術研究活動等に取り組んでいる「地域活性化学会」から優秀論文発表

### シンポジウム・提言発表

[10:15~11:45]

テーマ

「地域再生における高等教育機関の果たす役割」  
「シンポジウム」

コーディネーター 那須 清吾氏 地域再生プロジェクト委員長  
シンポジスト 全国の地域活性の汗かき人が大集合

★地域再生とは何を目標しているのか?

★地方の人が求める「幸せ」や「豊かな生活」とは?

★地域再生の構造的課題とは?

その構造的課題を解決するための生涯学習の方向性、高等教育機関の果たす役割を明らかにする。

